

連載 書写ってこんなにも面白い！ ②1

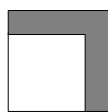
書写の要素

字形：内外の組み立て方のポイント③

山梨大学教授 宮澤 正明

今回も内外の組み立て方で、二方向を囲む形やそれを要素にする字例を取り上げます。

■二方向を囲むかまえ



二方向を囲むかまえには、「气（きがまえ）」「行（ぎようがまえ）」「弋（しががまえ）」「戈（ほこががまえ）」などがあります。

ここでは、「气」を取り上げます。

〈气〉

「気分・気温・天気・空気」など、学校生活において使用頻度の高い熟語に用いられる「气」ではありますが、児童は、字形を整えて書くのに苦労しているようです。

次のような形が見られます。

ア 頭部肥大形

頭部が肥大化して、「メ」を書くスペースが少ない形

気 気 気

この場合は、三本の横画間をつめて、それを長く書くよう指導すれば、すぐに課題は解決されます。

イ 四画目（折れ、その部分）曖昧形

折れが不適切で、その長さや方向が曖昧な形

気 気 気

この場合は、折れの部分で突き返し、大きな円を書くように指導するとよいでしょう。

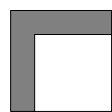
ウ 「メ」部不定形

「メ」の大きさ、形、位置が定まらない形

気 気 気

内部の中心をずらして均衡を図る方法は、見た目の重さ（視覚重量）の関係なので、児童にとっては理解しにくいかもしれません。そこで、文字全体の中心と内部の形の中心がずれていることに気づかせることで理解されやすくなると考えます。

原 広 屋



■二方向を囲むたれ

この場合は、右下図のように、四画目の始筆と終筆を線で結び、それに直交する線の上に「メ」が乗るように指導すると理解しやすいでしょう。

たれには、「尸（まだれ）」「尸（がんだれ）」「尸（やまいだれ）」「尸（しかばね）」などがあります。

これらの組み立てでは、内部の部分の位置がポイントになります。左払いに相当する画が右側にないので、内部の部分を少し右に位置させることで、左右の力の均衡が図られるようになります。この関係を知って書くと、たれの文字は自然に安定した形になります。

店 病 店 病

今回取り上げた組み立ての漢字は、内側の部分が全体の中心からずれているために、整えにくくなります。初めから文字例で説明するとわかりにくくなるので、概念図を用いて中心のずれを発見させてみたいものです。また、概念図によって思考や推理を働かせることにもつながります。書写指導は、書き文字教材（手本）を書く前から子どもたちに提示し、解説をすることが多いので、児童の思考停止状態を招きやすくなります。子どもたちの思考・推理によって、字形を整える原理・原則が発見されるような指導を工夫してみたいものです。